

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年8月13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872000906		
法人名	東成産業 株式会社		
事業所名	グループホーム いちさと	ユニット名	A
所在地	〒300-0842 茨城県つくば市柳橋122-8		
自己評価作成日	平成24年1月23日	評価結果 市町村受理日	平成24年8月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0872000906&SCD=320&PCD=08
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年3月13日	評価確定日	平成24年7月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>グループホームいちさとでは、家庭的な雰囲気の中で今まで培ってきた環境と隔たりがない様に心掛け職員一同各々の状況に合わせ、言葉使いや介護の仕方等工夫しながら対応しております。一日がゆったりと流れ生活に慌ただしさが感じられない様に心配りをしております。この考え方はいちさと理念に盛り込んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>新興住宅地の一角に位置する事業所であり、隣接する住宅の子どもたちが事業所に自由に入ったりして利用者と交流しているほか、事業所の敷地内にある畑で利用者や職員が地域住民と一緒に野菜を作的过程中で交流するなど、家庭的な環境に恵まれている。 管理者は地域や医療関係者とのネットワークを構築するとともに、職員とのチームワークの良さを活かして看取り介護を実施するなど、サービスの質の向上に努めている。 帰宅願望の強い利用者には家族等と協力して自宅と行き来するなど、利用者の視点に立った支援をしており、それにより利用者が落ち着いてくるなど成果を上げている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関、リビング、スタッフルーム（トイレ等）に理念が常に読める様に掲示してある理念を一日一度その日の職員全員で読み上げ実践している。	全職員で話し合い、「利用者様、地域の皆様とのお付き合いを大切にします」というキーワードが入った事業所独自の理念を掲げているが、「家庭的な環境」という観点での理念を掲げるまでには至っていない。 玄関や居間、トイレなどに理念を掲示するとともに、申し送り時に理念を全職員で読み上げて共有している。 職員は地域住民が事業所に来訪した際には、利用者が地域住民と交流ができるよう支援するなど、理念の実践に努めている。	地域密着型サービスの意義を踏まえて、現在の理念に「家庭的な環境」というキーワードを意識した理念を追加することが望まれる。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の子供たちが自由に出入りをして入居者様と交流をしている。散歩等で顔見知りになれる様にしている。近所の人達と畑を一緒に作っている。	利用者と職員が地域の運動会や敬老会に参加するとともに、事業所の芋煮会に地域住民を招待するなど双方向の交流をしている。 地域のボランティアが事業所を訪して楽器演奏やバルーンアートなどを披露している。 地域の子どもたちが事業所に自由に出入りして利用者と交流しているほか、事業所敷地内にある畑で利用者や職員が地域住民と一緒に野菜を作るなど、地域と日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター、キャラバンメイド等の研修を受け地域の方々に発信している。	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員、地域住民、民生委員、家族、役場等の方々と定期的に意見交換をしている。	市職員が参加する運営推進会議を市の指導に沿って3ヶ月に1回開催し、外部評価結果や利用者の状況、行事結果などを報告している。 芋煮会や救命救急講習会に併せて運営推進会議を開催するなどの工夫をしている。 管理者は、「出入り口の段差解消」、「花壇の整備」、「大地震等を想定した避難訓練」、「停電時にはヘッドライト使用」など会議出席者の意見を受けて、サービスの質の向上に反映させている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設の行事、避難訓練の時等には連絡をして実施、状況見学、意見交換、情報交換等をしている。	管理者は、対応困難ケースなどに関して市と連携を図りながら利用者に対応している。 市担当者とは地域密着型サービス連絡協議会の場でコミュニケーションを図るとともに、電話や面会などの機会を通して協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	講習会があれば参加をしその事について施設内での勉強会、マニュアルの理解を全員に浸透出来る様にしている。拘束は原則しないがどうしてもしなければならない時には家族からの同意書を頂く様にしている。	身体拘束排除マニュアルを作成するとともに、内部及び外部研修を通して全職員が身体拘束廃止についての理解を深めている。 点滴針を抜こうとする利用者には職員が付き添って対応するなど、きめ細かな対応をすることにより玄関の施錠も含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全員で防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族、役所、職員と共に必要に応じて話し合いをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には十分に説明をして理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を定期的に関き意見をお聞きしている。	家族等が利用料を支払いに来所した際に、リラックスした雰囲気の中で意見や要望を聴くよう努めているが、家族会を開催したり無記名のアンケートで率直な意見や要望を聴く機会を設けるまでには至っていない。 利用者や家族等から出た意見や要望を苦情相談対応記録に残し、「新聞を取ってほしい」、「ベッドに手すりを設けてほしい」などの要望を運営に反映させている。	以前開催していた家族会を再開するとともに、無記名のアンケートを実施して家族等が率直な意見や要望を表せる機会を増やすことを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス時、勤務表作成時には、職員の希望を取り入れている。	管理者は月1回のミーティングで茶菓子を出すなど、リラックスした雰囲気の中で職員の意見や提案を聞くように努めている。 管理者は職員が希望する研修に参加できるよう勤務を調整するほか、希望する休暇をノートに記入して勤務体制を組むなど、意見や提案を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	カンファレンス時、研修に参加した時等にはその時間帯を残業手当として給料に上乘せしている。研修に参加出来る体制を作っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が希望する研修については参加可能な環境、勤務体制を取っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	毎月定例会に出席して情報交換を行っている時々は他のグループホームに施設見学に行き情報を交換をし親睦を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	目配り、気配り、心配りをしながら入居者様と同じ目線でコミュニケーションを図りニーズを読み取る様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の気持ちを十分に傾聴し、理解をし安心して過ごして頂ける様に努めている。いちさとの様子、出来事を事ある事に連絡をしている。 (主に電話で)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時にはご家族様、主治医、訪看、薬剤師等との連携を図り、その内容に沿った支援を行っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に入居者様の気持ちを察しつつ同じ目線で時間を共有するように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何時でも家族様、入居者様が気持ちを話せる事が出来る雰囲気作りを心掛けている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時馴染みの物を持参して頂き、お墓参り、ご自宅へ行きたいと希望された時にはご家族様、役所等と連絡を図り実現可能であれば実施している。	家族等からの情報により、利用者の馴染みの人や場を把握している。 職員は利用者の馴染みの理・美容室や思い出がある通りへの外出に付き添うなどの支援をしている。 職員は利用者の知人が来訪した際には、再来訪を働きかけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でリビングを自由に行き来出来る様に支援している。毎日レク、体操の時間を設け皆様が顔なじみになれる様にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去しても時々は訪問をして相談、安否確認をしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントシート等を使用してその方の生活歴等を把握してコミュニケーションを取る中で個別ケアにつなげている。	センター方式のアセスメントシートを用い、利用者の思いや意向を把握している。 把握困難な利用者については、利用者の表情や様子を観察しながら試行錯誤の中で思いや意向の把握に努めている。 把握した思いや意向を連絡ノートに記録し、特記事項としてサインペンなどでマーキングすることにより全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、ご本人様から生活歴を把握して其の生活に沿ったサービスを提供している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設の生活時間に当てはめず、ご本人様の生活リズム、健康状態に合わせ無理のない様にやりたい事等を自由にして頂いている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファ、ミニカンファ等を行い、問題点はその都度解決し、主治医、訪看、ご家族様、薬剤師等と連携を図りながら介護計画につなげている。モニタリングは今年から一年単位で担当者を決めて実行している。	介護支援専門員が利用者や家族等、主治医、訪問看護師、薬剤師など関係者の意見を踏まえて介護計画を作成している。 3ヶ月毎のモニタリングや6ヶ月毎の評価に基づき介護計画を見直している。 利用者の状態に変化が生じた場合には、その都度利用者や家族等と話し合いながら介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	夜勤者からの申し送り、申し送りノート、薬局ノート、健康チェック表の活用等から健康状態を把握し全員が情報を共有し統一した介護、介護計画につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院の検査受信、歯科通院、外出希望の対応地域の行事の参加等を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、散歩、近所の子供たちが遊びに来てくれる事で顔馴染みになりあいさつが出来るようになり親しく接している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時主治医、ご家族様との話し合いの時間を設けご家族様、主治医、施設との連携を図り月二回の往診を受ける事で健康の維持、早期発見に努めている。	サービス開始前のかかりつけ医への受診を基本とし、かかりつけ医による往診や職員を対象とした講習会の機会を持つなど医師と職員との関係づくりに努めている。 職員は受診の際に利用者に付き添っており、受診結果を申し送りノートに記入するとともに、家族等に電話で報告するなど、関係者で情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の定期的な訪問看護による健康チェックを行い特変があれば主治医と連絡を取り指示を仰いでいる。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お互いに生活サマリー、看護サマリー、診療情報等で情報交換を行い、それを参考に介護を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの時期に入った時にはご家族様、主治医、訪看、薬剤師等との連携を密に図り各々の分野で出来る事を行い、共通した意識のもとで、統一した介護、看護を支援している。	「重度化した場合の延命治療及び看取りに係る方針」に基づき、入居時及び終末期介護開始時において利用者や家族等に説明して同意を得ている。 看取り介護の段階に入った場合には、利用者や家族等との話し合いを重ねるとともに、家族等が利用者と一緒に起居できるように配慮をするなど、工夫をしながら開設以来2名の看取りをしている。 職員は看取り介護において家族等のほかに主治医や訪問看護師、薬剤師と密に連携を図りながら支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	近隣の方々も参加して、救命救急の講習を受講し万が一の時に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもとによる定期訓練、ホームにおいても火災、地震訓練を行っている。その都度近所の人にも声かけを行っている。	夜間を想定した避難訓練を年1回実施しているが、消防署立会いの避難訓練を実施したり年2回以上避難訓練を実施するまでには至っていない。 防災業者の協力を得て年2回消防設備や避難経路の点検をしている。 訓練で得られた避難時間の短縮などの課題を記録として残し、対応するまでには至っていない。 避難訓練を平日に実施しているため地域住民が参加できないなどの理由により、災害時における地域との協力体制を築くまでには至っていない。 災害に備えて食糧や飲料水、毛布などを備蓄している。	消防署立会いの避難訓練を予定しているので確実に実施するとともに、避難訓練は消防署立会いを含め年2回以上実施し、訓練で明らかになった課題を記録して解決に向けて取り組むことが望まれる。 地域住民の参加を考慮した避難訓練実施を再度目標達成計画に盛り込み、地域との協力体制を早期に構築することが望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報の守秘義務を厳守している。カンファ等で取り上げ個々の職員の意識を高めている。	排泄誘導の声かけは耳元で小声で行うとともに、「おしっこ出た？」など直接的な言葉を使用しないように努めている。 職員採用時に秘密保持に関する誓約書を提出してもらうとともに、個人情報保護に関する研修を年1回実施している。 個人情報に関する書類は、鍵を掛けた事務室のロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々コミュニケーションをとる事で意思疎通を図りご本人の思いを引き出している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活習慣に合わせ見守り、支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2～3種類の服装をかわるがわる着て頂くのではなく、その方の気持ちを考慮に入れ服装選びを行っている。買い物等に同行して見守りをしながら好きな買い物をして頂く。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはご本人様の希望メニューにしたり収穫祭にはご家族様、地域の方々を交えて共に喜び合い食して頂いている。	食材配達業者による献立となっているが、事業所敷地内にある自家菜園で収穫した野菜を使った料理を加えるなどの工夫をしている。 誕生日や季節行事には利用者が希望する特別献立とするほか、ドライブを兼ねて外食を楽しんでいる。 利用者は職員の支援を得ながら、食事の準備や後片付けをしている。 食事に関するアンケートを実施し、利用者の好みや嗜好にそうよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェック表を活用しながら個々の摂取量水分量を把握し、水分量の少ない時には好みの物を提供して補って頂く。食材業者が介入する事で一日のカロリーが確保されている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一日3回の口腔ケア（歯ブラシによる）出来ない時にはうがいの実施。（義歯洗浄を含む）。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を参照しながらトイレ誘導自立の方に対しては見守り又は一部介助をしている。	排泄チェック表により利用者一人ひとりの排泄パターンや排泄サインを把握し、前誘導することでおむつやパッドの使用を減らすように努めている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の起床時での水分摂取、適度な運動、あるいはセンナ茶を飲んで頂く。医師からの処方薬で対処している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴表に沿って入るがご本人の希望により随時変更を含めて対応をしている。	週2回から3回の頻度での入浴を基本としているが、利用者一人ひとりの希望にそった入浴も可能となっている。 入浴を拒む利用者には、執り成して入浴支援をしたりシャワー浴で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	レク、歩行練習、散歩等に参加して頂き適度な運動を日常生活の中に取り入れている。居室の環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師、医師の指導のもとに服薬管理を行っている。処方薬については職員全員が把握出来る様各々のユニットにすぐ閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の趣味に対する支援見守り、ご家族と一緒に過ごす時間が出来る様な援助をしている。食べたい物の訴えがある時には要望に応じ提供している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望により買い物に同行したり、外に出る機会が少ない方に対しては声をかけて外に出る機会を作って差し上げている。更に地域の行事に参加している。(小学校の運動会、敬老会等)	職員は利用者の毎日の散歩のほか、近くのスーパーや衣料品店での買い物、コーヒーショップでの喫茶を楽しめるよう外出支援をしている。 数ヶ月に1回は車いす使用の利用者も一緒に弁当を持って花見やサーカス見物などに出かけている。 帰宅願望の強い利用者には、家族等と協力して自宅と行き来するなどして支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望により自己管理している方もある。買い物のおりにその都度応じている。	/	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙はその都度対応している。毎月のいちさと便り、御本人様が年賀状の作成し投函している。	/	
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は清潔を心掛け、常に安全であり室温に気配りをし季節感を出し心地よく過ごせる様に工夫している。	快適な温度や湿度になるようコントロールされた共用空間にはソファが設置されているほか、廊下には椅子が配置されており、飾られた季節の花とあいまって利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室になっているので一人の時間も自由に過ごす事が出来る。利用者様同士でのおしゃべりやお互いの居室を行き来している事を見守りしながら支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	プライバシーに配慮し安全、清潔に過ごして頂ける様に気配りをしている。天気の良い日には布団を干して換気や温度調節をこまめに行っている。	利用者は居室に使い慣れた化粧道具やダンス、テレビのほか、家族等の写真や位牌を持ち込んで居心地よく過ごしている。 職員は利用者と家族等による居室づくりを、家族等に働きかけている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が判らなくなる方に対しては入り口ドアに大きく名前を掲示したりトイレの場所の表示入浴時の段差や滑り止め等安全に使用できる工夫や誘導を行っている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの広がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームいちさと

作成日 平成24年8月8日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	「家庭的な環境」というキーワードを理念に取り入れる。	地域と今まで以上に交流を持って家庭的環境を整える。	行事ごとに地域に声掛を行いコミュニケーションを図っていく。	1年
2	10	開店休業状態の家族会を再開し、無記名のアンケートを実施し家族が率直な意見や要望を表せる機会を増やす。	家族の意見を取り入れ運営に反映させる。	意見や要望を聞きだし易いアンケート作成を行い、それを反映させる。	1年
3	35	地域住民の参加を考慮した避難訓練を実施し地域との協力体制を早期に構築する。	地域住民の参加を促し消防署立会いの下、避難訓練を実施していく	年間計画を基に地域の皆様の協力を得てゆく体制を整えていく。	1年
4	11	普段から自己分析を行いケアの力を向上してゆく。	一人ひとりに自己評価を実施してケアに反映させていく。	自己評価を半年に一回実施しその意見を反映しながらケアに取り組む。	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。